

開花を待つ桜の蕾の息吹が感じられる季節となりました。

本日、福井県立高志高等学校 第77回「卒業証書授与式」に当たり、PTA会長、谷口直隆 様、同窓会会長、藤井俊彰 様 をはじめ、多くの来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業生の皆さんを祝福できますことは、この上ない喜びであります。高志高等学校・中学校の教職員を代表いたしまして、高い所からではございますが、ご臨席の皆様にご心より御礼申し上げます。

ただ今、244名の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。保護者の皆様には、お子様が卒業の日を迎えられ、さぞ、お喜びのことと存じます。教職員を代表し、心からお祝い申し上げますとともに、これまで、本校にお寄せいただきました、ご理解とご協力に対し、深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんは3年間、高志中学校にも在籍した皆さんは6年間、本校での様々な活動に前向きに、そして誠実に取り組んでくれました。何事にも精一杯打ち込んだ皆さんの姿は、在校生の良きモデルとなっただけでなく、私たち教職員にも大きなエネルギーを与えてくれました。

さて、ここ数年の社会情勢の変化は非常に大きなものです。私は10年前、ある学校の設立に携わり、その教育内容を定める際に、当時、最先端として注目されていた次の5点を考慮して検討していました。

- ①AIに東京大学合格の力をつける通称「東ロボ」プロジェクト。
- ②教育活動でのICT機器（タブレット）の常時活用。
- ③海外大学への進学が可能なバカロレア教育。
- ④正解のない問いを考える探究的な学び。
- ⑤共生社会における外国語学習。

なぜなら、それが2040年ごろの社会を支える皆さんたちにとって、必ず必要になる資質・能力と考えていたからです。

そして、それから10年後の2026年現在、AIは大学入学試験共通テストでほぼ満点を取り、一人一台タブレットの完全配置、探究学習も精度を高め、新学習指導要領にも当然のように記載されるなど、多くの学校で当たり前のように行われています。

そこで、私は次の文章の一節を思い出さずにはられません。

それは、京都大学の著名な国際政治学者であった高坂正堯 氏の1968年時点での言葉ですが、2026年の現在でも色褪せず、今でも十分通用する示唆に富んだ内容です。簡潔にポイントを紹介します。

「われわれは前例のない激流の中に置かれている。…（中略）…世界がひとつになり、世界のどの隅でおこったことでも、われわれに大きな影響を与えるようになった。…（中略）…次々に技術革新がおこり、少し前までは考えられもしなかったことが可能になる。われわれの生活はそれによって影響を受けるから、われわれは新しい技術に適應するための苦しい努力をつづけなくてはならないのである。…（略）…

皮肉なことに、こうした状況はかつて多くの人々の夢であった。…（中略）…そうした願望は大体のところ実現したのである。そして、実現した願望が今やわれわれに問題を与えている。

そのような状況を捉えるためには、なによりも事実を見つめなくてはならない。とくに、文明について早急な価値判断を避けて、その恩恵と共に害悪を見つめることが必要である。…（略）…」という内容です。

卒業生の皆さんの多くは既に成年年齢18歳を迎えていると思いますが、この文章を読んでどう感じるでしょうか。当時の国際的状況・社会的状況と現在の状況は異なりますが、60年ほど前に高坂氏が感じている「前例のない激流の中」という時代は、2026年の現在も、同様であると言えるでしょう。

そして、皆さんがこれから歩いていく今後の社会も「絶え間のない変化の連続」であり、止まることのない、時が過ぎていけばいくほど激しく・大きな「激流」「波」になっていくでしょう。

しかし、私は悲観をしておりません。なぜなら、何よりもこの高志で、自ら問いを立て、試行錯誤することを通して学びを続け、新しいものや価値を創ったり今ある問題を解決したりすることで社会に貢献しようとする「高志の学び」に取り組んできた皆さんだからこそ、変化の続く将来の荒波の中でも変化に対応し続け、困難を克服し乗り越え、それぞれの夢の実現に向けて力強く歩んでくれると信じているからです。

あの南アフリカでアパルトヘイト（人種隔離政策）撤廃のために闘い、ノーベル平和賞を受賞したネルソン・マンデラ氏が「教育とは、世界を変えるために使える、最も強力な武器である」と有名な言葉を残しているように。

そして、卒業生の皆さん、高志の教育の理念の一つは、「未来社会の創り手の育成」です。皆さんが将来の如何なる変化にも対応し、今後の人生を力強く切り拓いていくことを願い、混乱期のイギリス、アメリカのリーダーであった二人の言葉を送ります。

イギリスの首相であったウィンストン・チャーチルの言葉、

「向上することは、変化することである。完璧であることは、頻繁に変化することである」

そして、アメリカの大統領であったジョン・F・ケネディの言葉、

「変化とは人生の法則であり、過去や現在しか見ない人は間違いなく未来を見失う」

この言葉を心のどこかに留めてもらえればと思います。

最後になりましたが、卒業生の皆さん、高校生・中学生の在校生の皆さん、保護者の皆様、そして、高校・中学校の先生方、ここにお集まりの皆様方、これらすべての方々とともに、これからも高志高等学校・高志中学校が変化を恐れず挑戦し、進化し続ける学校として進んで行くことを祈念し、式辞といたします。

令和8年3月3日

福井県立高志高等学校 校長 濱田 敏功